

「PPP/PFI手法選択ガイドライン」 第1章 記載概要について

論点

- 導入未経験の読み手には、行動を起こすきっかけ、経験済みの読み手には、さらなる活用のきっかけとなるガイドラインとして
いる。
- 本章ではガイドラインの導入として、読み手の知識量や知りたい事項に応じて、本ガイドラインでの目的や読み方を示している。



- ガイドラインの作成方針、対象者・目的は適正か
- 記載内容に過不足はあるか

第1章での記載内容

- 本ガイドラインの目的
 - ガイドラインの対象者・目的
 - はじめに（PPP/PFIの必要性）

- 本ガイドラインの構成
 - ガイドラインの読み方

- 各種ガイドラインとの関係性

- PPP/PFI手法の選択イメージ

本ガイドラインの対象者・目的

- すべての下水道管理者・担当者を対象とする。
- 特に、中小規模でPPP/PFI導入未経験の地方公共団体職員を主な対象者とする。
- PPP/PFI導入未経験の地方公共団体
 - PPP/PFI手法の仕組み・特徴を理解する
 - PPP/PFI手法の導入手順がイメージでき理解する
 - PPP/PFI導入の必要性を確認し、導入に向けて動き出す
- 既にPPP/PFI導入済みの地方公共団体
 - 過去に実施した手法選択手順と比較してみる
 - 新たな視点や論点を得る
 - 次期契約に向けて事業のレベルアップを検討してみる
 - PPP/PFI手法のさらなる活用を図る

はじめに(PPP/PFIの必要性)

- PPP/PFI（官民連携）手法の導入は、ヒト・モノ・カネの各方面における課題への対応策の一つ。
- 下水道事業の持続可能性をいかに確保するかという観点で様々な検討を進める中で、それぞれの経営課題や地域の実情をしっかりと分析した上で、PPP/PFI導入についての検討を実施していくことが重要。
- コンセッション方式は、長期的な観点から持続可能な下水道経営に取り組む上で大きな方向性の一つ。



執行体制の確保や効率的な事業運営等により、下水道事業の持続のための様々な取組が必要。

取組

支出抑制施策

- | | |
|-------------|-----------------------|
| ストックマネジメント | 広域化・共同化 |
| 新技術導入 (ICT) | PPP/PFI (官民連携) |
| 都道府県構想見直し | |

収入改善施策

- | | |
|---------------|----------|
| 使用料の適正化 | 接続の促進 |
| 資産の有効活用 (収益化) | 未徴収・滞納対策 |
| | |


本ガイドラインの構成(第1回検討会資料再掲一部改)


- 改正後のPPP/PFI手法選択ガイドライン目次案については、以下のとおり。
- 現行のPPP/PFI手法選択ガイドラインでは記載のなかった各PPP/PFI手法の特徴や、地方公共団体の課題洗出しの方法、解決策としての具体的な事例についても盛り込むことで、担当者が実際に参照しやすい内容とする。


<新しいPPP/PFI手法選択ガイドラインの各章の概要(案)>

1章	2章	3章	4章
総論 = ガイドラインの位置づけ ガイドラインの対象 ✓ すべての下水道管理者・担当者を対象とする ✓ 特にPPP/PFI導入未経験の地方公共団体を想定 ガイドラインの読み方 ✓ PPP/PFIの仕組みから知りたい人、手順を知りたい人等のためにどこから読み進めたら良いかを紹介する	PPP/PFI手法の概要 = PPP/PFI手法の特徴整理 手法の分類 ✓ PPP/PFI手法の全体像・実施状況 各手法における特徴 ✓ 従来型個別委託、包括的民間委託、DB、DBO、PFI、コンセッション等の特徴や具体例を紹介	PPP/PFI手法の選定フロー = 手法選定に関する具体的な手順 手法選択のステップ ✓ PPP/PFI手法を選定するまでのステップの流れに沿って整理 各ステップの基本的な考え方 ✓ 事業体の課題整理、簡易的な比較検討方法、PPP/PFI手法の選定までの各段階における検討課題・考え方を整理	優先的検討規程 = 現行の手法選択GL内容 優先的検討規程位置づけ ✓ 優先的検討規程の位置づけを明示 優先的検討規程(案)と解説 ✓ 優先的検討規程における検討内容、考え方等を整理
	✓ 旧コンセッションGLの第2章等を参考 ✓ 新規の記載	✓ 新規の記載	✓ 現行の手法選択GLの記載内容

本ガイドラインの読み方

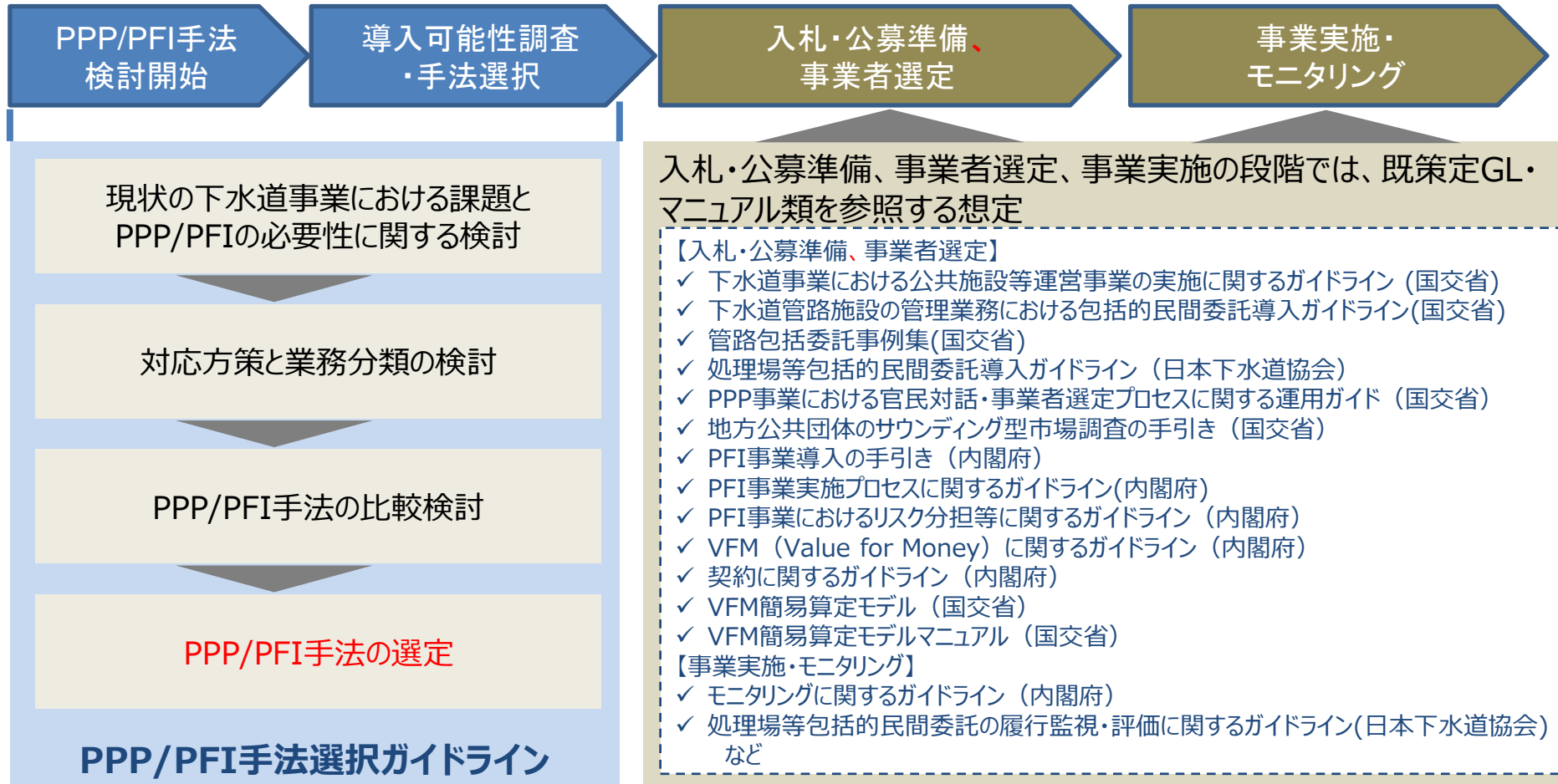
- PPP/PFI手法の仕組み・特徴等を知りたい。
 - 新たにPPP/PFI手法を導入しようとする職員
 - 新たにPPP/PFI担当になった職員
 - さらなる活用やより有効な手法を模索する職員 第2章へ

- PPP/PFI手法を導入するための手順・検討内容を知りたい。
 - 新たにPPP/PFI手法を導入しようとする職員
 - 新たにPPP/PFI担当になった職員
 - 過去に実施した手法選択手順を検証しようとする職員
 - 自ら検討を実施しようとする職員 第3章へ

- 優先的検討規程について知りたい。
 - 下水道部局で優先的検討規程を策定しようとする職員 第4章へ

PPP/PFI手法選択ガイドラインの位置づけ(再掲一部改)

- 改正後の手法選択ガイドラインは、下水道事業におけるPPP/PFI手法を考える地方公共団体担当者が、一番最初に手に取るガイドラインとし、円滑かつ適切にPPP/PFI手法を選定できるよう整理する。
- 手法選択後、管路包括委託ガイドラインや、公共施設等運営事業ガイドライン等、個別の詳細ガイドラインを参照いただくことを想定し、参照先はわかりやすく示す。



準備 ▶

具体的な課題 (イメージ)

▶ 解決策 (イメージ)

Case1 (例えば・・・)

- 人口減少等による下水道使用料の減収が見込まれるため、おもに【処理場・ポンプ場 and/or 管路】の維持管理費を低減したい。
- 職員数の減少も見込まれるため、事務負担も軽減したい。

例えば・・・

包括的民間委託

コンセッション方式

Case2

- 未普及解消 (【管路】新設)、老朽化対策等 (【処理場・ポンプ場等】改築更新等) について、建設改良費・事務負担を抑えながら進めたい。

DB

Case3

- 建設改良費を低減しつつ、【処理場・ポンプ場等】の老朽化対策等 (この課題例では改築更新) を進めたい。
- その維持管理も委ね、費用・事務負担を減らしたい。

DBO

PFI (従来型)

コンセッション方式

Case4

- 汚泥等、【資源を有効利活用するための施設】等について、効率的に建設 (新設) ・維持管理等をしたい。

DBO

PFI (従来型)

Case5

- 1つ or 複数の課題・施設等に対し、まとめて解決策を考えたい。
<ただし、施設等の新設は除く。>

コンセッション方式

自らの組織の課題を考えてみる